

翔

2007 August
No.187 百万石蝶談会



近年減少傾向にあると言われる8種のチョウの追加記録

大 脇 淳・竹 谷 宏 二

他府県では、複数の県で絶滅危惧になっているオオチャバネセセリ、ミヤマチャバネセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、コキマダラセセリ、スジボソヤマキチョウ、オオミスジ、ウラギンスジヒョウモンの7種と、国の絶滅危惧II類に指定されているホシチャバネセセリについて、石川県における近年の報告が乏しいので、筆者は以前、これらのチョウの現状把握の必要性を報告した（大脇 2006）。

その後、新たな場所でいくつかの種を確認する機会に恵まれたので、ここに報告したい。

■オオチャバネセセリ

2006年 7月	石川県小松市尾小屋	1頭目撃	大脇 淳
2006年 9月29日	石川県白山市（旧鳥越村）阿手	1頭目撃	大脇 淳
2007年 7月 1日	石川県金沢市白見谷	1頭目撃	大脇 淳
2007年 7月 6日	石川県金沢市白見谷	1頭目撃	大脇 淳

相変わらず、能登地方における本種の現状は不明なままであり、動向が気になる。

■コキマダラセセリ

2006年 7月30日	石川県金沢市医王山	多数目撃	大脇 淳
2006年 7月下旬	石川県金沢市日尾	1頭目撃	大脇 淳

2006年には、医王山の国見～夕霧峠までの百万石道路沿い、夕霧峠～西尾平へ行く車道沿いで、おびただしい数の本種を目撃した。夕霧峠～西尾平の車道沿いや西尾平から覗までの林道（重山道路）で、2005年には全く目撃できなかったのは、年によって本種の個体数が大きく変動するためであろう。

■ホシチャバネセセリ

2007年 6月26日	石川県小松市那谷町	3頭目撃	大脇 淳
2007年 7月 3日	石川県小松市那谷町	2頭目撃	大脇 淳

現在（2007年）、本種の分布調査中である。個体数は少ないが、まだ健在のようで嬉しい。しかし、本種のハビタットは若いスギの植林地のような不安定な環境であることが多いようで、将来も安泰と言うわけではないかもしれない。

■スジボソヤマキチョウ

2006年 9月17日	石川県白山市（旧鳥越村）柳原	1頭目撃	竹谷宏二
2006年10月 9日	石川県白山市（旧鳥越村）柳原	5頭目撃	竹谷宏二
2006年10月 9日	石川県白山市（旧鳥越村）下出合	1頭目撃	竹谷宏二
2006年10月 9日	石川県白山市（旧鳥越村）若原	2頭目撃	竹谷宏二

本種は石川県では健在なようで、各地で目撃されている。また、前報を書いた後、様々な方から各地で本種を見たと教えていただいた。

石川県では、コキマダラセセリとスジボソヤマキチョウについては、全く心配無用なようである。ミヤマチャバネセセリも各地で健在と聞く。しかし、ホシチャバネセセリは、その生息環境が不安定なことから、開発されやすい低地の里山に分布が集中しているため、将来どうなるかはよく分からない。オオミスジ、ウラギンスジヒョウモン、ヘリグロチャバネセセリはさらなる目撃情報の蓄積が望まれる。



ホシチャバネセセリ 2007年7月3日小松市那谷町



オオチャバネセセリ 2007年7月1日金沢市白見谷

《 参考文献 》

大脇淳(2006)近年減少傾向にあると言われる蝶8種の石川県での現状について. 翔(181):4-6.

《おおわき あつし 〒920-0942 金沢市小立野1-23-20》

《たけたに こうじ 〒924-0815 白山市三浦町4 4-2》

能登町宇出津沖で燈火に飛来した蛾

松井正人・日吉芳朗

石川県鳳珠郡能登町の宇出津や鵜川の海岸から約8 km沖合の海上で、船上の灯りに飛来した蛾が採集されたので報告する。

これは、日吉が海上での採集を本多 廣氏に依頼し、松井が採集品の同定を富沢章氏に依頼して、両氏のご厚意によって成し得たもので有る。本多 廣、富沢 章の両氏には、心からお礼申し上げる。



■2006年11月10日 石川県鳳珠郡能登町宇出津沖約8 km海上 本多 廣 採集
 タマナヤガ 2頭、キミヤクヨトウ 2頭、アワヨトウ 1頭、
 ミツモンキンウワバ 3頭、クロモンクチバ 4頭、ツキワクチバ 1頭、
 ムクゲコノハ 2頭、フクラスズメ 3頭、アカエグリバ 2頭、アケビコノハ 3頭

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

《ひよし よしろう 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

ハルゼミの羽化殻の記録

浅地 哲也

今年（2007年）、金沢市卯辰山で、ハルゼミの羽化を観察し、採集した羽化殻の性比をカウントしたので報告する。

ハルゼミの抜殻数（2007年、金沢市卯辰山）

観 察 日	オス	メス
4月29日	11	2
4月30日	17	2
5月 1日	20	5
5月 5日	25	16

5月中旬ともなると羽化殻が非常に少なくなり、本種の新たな発生が終息したことがうかがわれた。セミの性比は、「発生初期はオスが多く、メスが少ない」と言われ、ハルゼミにも同様な傾向がうかがわれることとなったが、調査の初動遅れ等反省すべき点もあり、来年度以降も引き続き観察を続けたい。

《あさじ てつや 〒921-8021 金沢市御影町26-7》

石川県旧輪島市での2006年の蝶の採集・観察記録から

日 吉 芳 朗

2006年は、気象状況が蝶の成育に不都合だったためか、全国的にその発生が好ましくなかったといわれ、輪島市も例外でなかったようにみえる。

■ウスバシロチョウ

1989年に松井正人氏が記録された空熊町（松井、1989）を、昨年に引き続いて意欲的に調査したものの、見出すことができなかった。また、例年確認している地域以外で見かけることもなかった。

■ヒョウモン類

オオウラギンスジヒョウモンとミドリヒョウモンが多く、クモガタヒョウモン、ウラギンヒョウモン、メスグロヒョウモンはこれらよりずっと少なかった。しかしメスグロヒョウモン♀が異常と思われるくらい目につき、このことが、本年、舳倉島で目撃されたこと（後藤・他、2007）に関連しているのかもしれない。なお、ウラギンスジヒョウモンとツマグロヒョウモンは、少数を採集、目撃したにすぎなかった。

ウラギンスジヒョウモン

2006年 8月 1日	輪島市高洲山	1♂2♀	日吉芳朗
2006年 8月 1日	輪島市鉢伏山	1♂目撃	日吉芳朗
2006年 8月 3日	輪島市鉢伏山	1♂	日吉芳朗
2006年 9月 3日	輪島市宝立山	1♂	日吉芳朗

ツマグロヒョウモン

2006年 9月 3日	輪島市宝立山	1♂目撃	日吉芳朗
2006年 9月15日	輪島市宝立山	1♂	日吉芳朗
2006年10月 1日	輪島市中段町堂下	1♀	日吉芳朗
2006年10月28日	輪島市中段町堂下	1♂	日吉芳朗

ウラギンスジヒョウモンの8月の個体は、いずれも新鮮な個体であった。ツマグロヒョウモンの宝立山での記録はこれのみで、状況からみて同一個体の可能性もある。中段町での♀個体は、たいへん新鮮であり、遠方からの飛来とは考えづらい。

■オオヒカゲ

2005年にその姿を見ることができなかったが、本年はかつての多産地で少数ながら採集・目撃することができた。

2006年7月22日	輪島市三井町与呂見坂田	1♂	日吉芳朗
2006年7月25日	輪島市三蛇山	1♂	日吉芳朗
2006年7月26日	輪島市三井町与呂見坂田	1♂採集1頭目撃	日吉芳朗

■ゼフィルス

輪島市のゼフィルスは、本来、種類・個体数ともに少ないのであるが、本年はとりわけその傾向が著しく、オオミドリシジミ数頭を採集・目撃したにすぎなかった。

オオミドリシジミ

2006年6月28日	輪島市鉢伏山	2♂採集1♂目撃	日吉芳朗
2006年6月29日	輪島市宝立山	3♂	日吉芳朗
2006年7月 7日	輪島市宝立山	2♂	日吉芳朗

なお本年は、輪島市に未記録であるウラゴマダラシジミの食草イボタノキを、輪島市植物同好会会員の坂下静香氏のご協力を得て探したものの、市街地の住宅の庭にいくらか見出したほか、町野町大川と石休場町（松井正人氏による）で見かけただけであった。

■中段町堂下の状況

2003年より3年間、8月中頃にこの地で採集されたウスイロコノマチョウ（日吉、2005）を、本年は目撃することもできなかった。飛来しなかった可能性もあるが、飛来したとすれば、目撃できなかった原因の一つは、これまでトラップをかけていたオニグルミの大木が6月に切り倒されたことにあると考えている。桜並木に不要、あるいは将来の堤防工事の妨げになると判断されたのか定かでないが、きわめて残念なことである。この1本の木にかけたトラップにコムラサキ、スミナガシ、オオヒカゲ、サトキマダラヒカゲなど、輪島市では比較的珍しい種が集まった。なお、対岸（小伊勢町下房河原）にもほぼ同じ大きさのオニグルミがあるものの、そばに広い畑があり人の出入りが多く、堂下の木の代用にはあまりならなかった。ここでのコムラサキとサトキマダラヒカゲの記録を以下に記す。

コムラサキ

2006年6月27日	輪島市中段町堂下	2♀	日吉芳朗
2006年6月28日	輪島市中段町堂下	1♂採集1♀目撃	日吉芳朗
2006年8月13日	輪島市中段町堂下	1♂採集2♂目撃	日吉芳朗
2006年8月18日	輪島市中段町堂下	3♂採集2♂目撃	日吉芳朗
2006年8月27日	輪島市中段町堂下	3♂	日吉芳朗

サトキマダラヒカゲ

2006年8月20日	輪島市小伊勢町下房河原	2♂採集1頭目撃	日吉芳朗
2006年8月21日	輪島市小伊勢町下房河原	1♀	日吉芳朗
2006年8月27日	輪島市小伊勢町下房河原	1♂1♀	日吉芳朗

コムラサキのうち、8月13日に採集した1♂は褐色型であったが、それ以外はすべて黒色型であった。

■舢倉島での記録

9月28日、気温23～24℃、風弱く曇、ときたま日が差すおだやかな日であった。島のほぼ全域にヤマトシジミがきわめて多く、モンキチョウとヒメアカタテハが多く見られた。しかし、イチモンジセセリは数が少なかった。他にモンシロチョウ1♂を採集した。

2006年9月28日 輪島市舢倉島 日吉芳朗 観察

ヤマトシジミ	多数目撃	ヒメアカタテハ	多数目撃
モンキチョウ	多数目撃	イチモンジセセリ	数頭目撃
モンシロチョウ	1♂採集		

当日（9月28日）、メスグロヒョウモン1♀が、数名のバードウォッチャーにより目撃されている。これを含め、2006年に舢倉島で観察されたキベリタテハとアゲハチョウについては、後藤・他（2007）に記されている。

■その他

輪島市では少ないとみられる種の採集・目撃記録を以下に記す。

キマダラセセリ

2006年7月20日	輪島市三蛇山	1♂	日吉芳朗
2006年7月22日	輪島市三井町与呂見坂田	1♂	日吉芳朗
2006年7月23日	輪島市三井町与呂見坂田	1♂	日吉芳朗
2006年8月 2日	輪島市鉢伏山	1♀	日吉芳朗

ホソバセセリ

2006年7月22日	輪島市三井町与呂見坂田	2♂	日吉芳朗
2006年7月23日	輪島市三井町与呂見坂田	1♂	日吉芳朗

アオバセセリ

2006年8月 7日	輪島市高洲山	1頭目撃	日吉芳朗
------------	--------	------	------

アサギマダラのマーキング調査については、日吉・他（2007）に記した。

《参考文献》

- 後藤義夫・野村明・日吉芳朗（2007）2006年、輪島市舢倉島で新たに蝶3種を目撃する。翔（184）：1-4.
 日吉芳朗（2005）石川県輪島市中段町で3年連続ウスイロコノマチョウを採集。翔（177）：2.
 日吉芳朗・日吉南賀子（2007）2006年の石川県輪島市におけるアサギマダラのマーキング調査。翔（185）：1-4.
 松井正人（1989）奥能登のウスバシロチョウ その2。翔（78）：2.

《ひよし よしろう 〒928-0001輪島市河井町1部64-1》

2006年アサギマダラ日記

松 井 正 人

■ 5月20日 アサギ天国

朝から雨が止まないが、雨を押し
てマーキングをスタートする。小雨
が大雨に変わり、11時にはずぶ濡れ
になって着替えをし、次のポイント
に移動する。11時45分に志賀町増穂
浦に到着すると雨は止んでいた。海
岸のチガヤ原が「火入れ」されたよ
うで、一緒に生えていたスナビキソ
ウも燃え、この燃え殻にアサギマダ
ラが集まっていた。「火入れ」面積
が広く、燃え殻周辺にはアサギマダ
ラが乱舞し、さながらアサギ天国
だった。



■ 5月27日 ひとすくい8頭の醍醐味の後は

砂利浜の志賀町鹿頭の海岸には、
まるで絨毯を敷いたようにスナビキ
ソウが生えている。しかし、アサギ
マダラはえり好みをするらしく、気
に入ったスナビキソウに群がってい
て、ひとすくいすると、8頭がネッ
トに入った。石川県の海岸では始め
ての体験で、1頭ずつネットから出
してマーキングしていると、中から
「石ひよし」マークの個体が出てき
た。



マーク：石ひよし 003 性別：♂

標識者：日吉芳朗

標識地：石川県輪島市大川浜

標識日：2006年5月25日

直線移動距離：30km

再捕獲者：松井 正人

再捕獲地：石川県志賀町鹿頭海岸

再捕獲日：2006年5月27日

■ 5月28日 姫島状態もお日様が顔を出してパー

朝から土砂降りだが、そのうち上がるとの予報に、珠洲市へ出発。雨は、なかなか上がらず、小降り、大降りを繰り返す。小降りになるのを待ってマーキングしていると、何度目かに雨が上がった。川浦海岸で、濡れたスナビキソウ群落に飛び込むと、アサギマダラが一斉に舞い上がり、狭い範囲だが、20～30頭が飛び回り、姫島のような乱舞状態となる。あっけにとられて楽しんでたのも束の間で、雲間からお日様が顔を出すと、涼しかった海岸が急に暑くなり、アサギマダラは、何処へともなく消えてしまった。



■ 5月31日 夢か現か午後の海岸マーキング

日差しを遮るものがない海岸は、暑くなり易く、お天気の良い日にアサギマダラが観察できるのは9時か、せいぜい10時と考えていた。珠洲市で、次々と海岸を回るうちに時間が経ち、狼煙（のろし）に着いたのは午後1時を回っていた。スナビキソウを探し回り、一角に足を踏み入れて驚いた。スナビキソウにびっしりアサギマダラが止まっている。驚かさず、風下の方から静かに採集しマーキングを続ける。採っても採ってもアサギマダラは減らない。暑くもなく、夢のような時間が過ぎ去った。我に返れば、大きなタブが海岸にせり出し、スナビキソウに影を落としていた。1時間半ほどで69♂にマーキングしていた。



■ 6月3日 岩壁を背に次々と飛来するアサギマダラにマーキング

輪島市門前町鹿磯浜には、暑いのにアサギマダラが次から次へと飛来する。背後には岩壁があり上昇気流ができていているせいか、上空にはウミネコやトビがたくさん輪を描いて舞っている。この状態がアサギマダラを引き寄せているのか。飛来したアサギマダラは暑くてたまらないようで、ヨシの中に生えたスナビキソウに止まり、驚かしてもヨシの中の日陰から飛び出そうとしない。

■ 7月8日 ツルガシワで幼虫観察

金沢市犀川上流で幼虫調査。イケマからは見つからず、ツルガシワからは13頭の幼虫が見つかった。2齢1頭、3齢6頭、4齢6頭と思われ、写真は4齢と思われる25mm級の幼虫。主脈に2頭が並び、同じ向きに頭を傾げているのは、訳が有るのだろうか。



■ 7月下旬 梅雨前線北上せず

22～23度前後の気温が好きなアサギマダラの観察シーズンは、年3回。

1回目は、初夏の海岸で、たくさん観察でき、マーキングは上々だった。暑くなる7月中頃からは、早朝の医王山北方稜線がアサギマダラの好む温度帯で、例年ヨツバヒヨドリに群れている。ところが、7月30日になってもオホーツク海気団の勢力が強く、梅雨前線が北上できずに下がって晴れる。おかげで涼しいが、山にはアサギマダラが上がってこない。今年は、北方稜線の観察は少なかった。



■ 9月16～18日 台風接近で宝達山は大乱舞

台風が近づいていたが、能登半島を避けるように通り過ぎた。16、17日は時々小雨が降る程度で曇り空、18日は晴れた。気温は徐々に上がり、18日はフェーン現象で、宝達山頂上でも30度を越えていた。台風接近で、16～18日のマーキングを見合わせた人も多く、マー

キング会も中止になっていた。ところが、アサギマダラが多い。タオルを回すと、アサギマダラが降ってくる。木々から舞い降りてくるのだが、次から次へと四方から舞い降りてくるので、まさしく降ってくる状態だ。林内に入る必要はなく、車を降りた場所でタオルを回せば降ってくる。岡崎市の宇野さんもマーキングに来ていたが、去年といい今年といい、宇野さん来るとアサギが乱舞する。この3日間で、宝達山1年分の8割ほどにマークができた。

月日	9月16日	9月17日	9月18日	計
マーキング数	203頭	244頭	323頭	770頭

■ 9月24日 アサギマダラの「おしっこ」

宝達山のマーキングも終盤となり、♀が多くなった。ピーク付近にはヒヨドリソウの仲間は無いと思っていたが、お宮裏の急斜面にヨツバヒヨドリがあり、アサギマダラが群がっていると聞かされる。大木が倒れてギャップができ、明るくなって生えてきたのだろうか。教えてくれたのは、マーキングの虜になってしまった堀さんご夫妻で、更に、「アサギマダラは、飛びながらおしっこしますね」とも教えてくれた。飛びながら、ポトポトと液体を落とすのをご夫婦で、何度か見ていると言う。残念なことに、長年アサギマダラと付き合っているが、私は見たことが無い。いったい何であろうか。アサギマダラの不思議がまたひとつ増えた。



家族でマーキングに訪れた子供達(9月24日)

■ 10月9日 加賀市刈安山で見納め

アサギマダラの見納めに加賀市刈安山に向かうが、アサギマダラは見つからない。頂上展望台には、鳥屋さんグループがタカの渡りを観察していた。今日は、渡りをするタカがたくさん見られ、地付きのクマタカも飛んでるらしい。そのうち、30頭ほどの「タカ柱」が観察され、興奮が伝わってくる。刺激を受け再びアサギマダラを探すと、午後になって気温も上がってきたのか、ようやく2♂2♀を観察する。

会員の動き・しゃばの動き

■アサギマダラの渡り第1波を観察

能美市の山口海岸で定点観測を続けている林氏、5月19日9時に2頭の飛来を観察。これから約1月、楽しくて眠い日々が続く。

■奥能登クロコムラ大作戦

生田省氏、6月2、3日に奥能登クロコムラ大作戦を展開したが、ちょっと早かったようだ。

■海上飛行部隊は半島突端で足止めか

今年は、アサギマダラの飛来が芳しくなく、観察数が伸びないが、6月6日は違った。大雨後の珠洲市、仁江から調査を始めたが、狼煙に近づくに連れ観察数が急増し、川浦や狼煙では湧いてくるかのようで、1分1頭のマーキングが続いた。

■今年のフジはまだかいな

6月7日嵯峨井氏、ちょっと早いと思いつつも気持ちを抑えきれず、フジミドリの下見に医王山。ゼフの姿は全くなかったが、ヨツバヒヨドリの縮れた葉っぱにアサギマダラが飛来していた。

■ゲッチョ昆虫記(税込1,575円)

教職を捨て埼玉から沖縄に移住したゲッチョこと盛口 満氏の昆虫記。副題は、「新種はこうして見つけよう」。虫の名前に自分の名前を遺した、江崎梯三博士と岩崎卓爾翁に迫り、新種はどのようにして見つかるのか、ということが虫を知らない人にもわかるように書かれている。虫屋の描写が楽しく、類は友を呼ぶと言うか、ゲッチョ氏の回りには、気が合いそうと思われる虫屋が集まっている。

■海岸マーキング終了

6月30日まで観察を続けたが、6月20日を最後に観察されていない。観察数は、昨年の半数以下と少なく、特に志賀町以南の観察数は、昨年の20%程だった。

■100円ショップの虫カゴがずらり

細沼邸の玄関に入ると、フジ、アイノ、ウラクロ、エゾ、メスアカなど、各種のゼフが入った虫カゴが並んでいる。世の中には、自宅に生虫を並べて近所の子どもを集めるおじさんも居るがそうではない。飼育の新鮮な個体を夢見て、採卵に励んでいる。

■世界一のセミ展

大阪市の自然史博物館で、7月7日から9月2日かけて開催中。イシガキニイニイからスジアカクマゼミまで、日本産全33種の成虫が展示されている。

■ようやく出てきたムラサキシジミ

一昨年は、大発生して何処でも採れたムラサキシジミだったが、その年の冬は強烈な寒波に襲われ、昨年は全く姿を見ることが無かった。今年は、ポツポツと採集話が聞こえてくるので、回復してきたらしい。

■大きな代償

半袖でブッシュに飛び込み、ホシチャバネを観察していた大脇氏、腕にかゆみを覚えたが、掻きながら観察を続けていたのが失敗だった。猛烈なかゆみが襲ってきたときには後の祭り、毒毛はすっかり腕に擦り込まれた後。どうあがこうか、かゆみからは逃れられない。上出来の写真が撮れたと喜んでいたら、大きな代償が待っていた。

■医王山馬の背ポイントは大賑わい

ゼフの好採集地として有名な馬の背ポイント、県内はもとより、遠い他県からの採集者も絶えない。平日なら数人、雨が降ろうが注意報が出ようが、必ず陣取っているS氏もいる。今年もヒサマツが採れたし、フジなんて、もう一杯採れている。

■ 例会の記録 ■

6月7日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

海岸アサギマーキング大作戦に付いて、松井氏が中間発表。5月19日から飛来は観察されたものの、観察数は少なく飛来本番はこれからかと思われ、ぜひ早朝の海岸に出かけてもらいたい。

その他の話題は、リングはまだ幼虫だった、トンボも渡ってくるが帰れない、ウスバキトンボの飛来は遅かった、展翅は2回で決める、セミもトンボも展翅で決まる、などなど。

参加は、生田耕、松井、浅地、細沼の4人。

■ 例会の記録 ■

7月5日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、海岸アサギ大作戦の結果報告を、松井氏が資料を配付し簡単に説明。コムラサキのDNA調査を、大脇氏が資料を使って説明しサンプルの提供を依頼。スジアカクマゼミの発生調査を、富沢氏がメッシュマップを使って各自の調査範囲を決めるとともに、調査内容に付いて説明。スジアカの調査期間は、7月28日～8月19日で、この間に各自2回以上調査する。

その他の話題は、医王山はアミ盛り、アオカミキリが大発生、これがうわさのウエダオオズ、ビノキュラ展足に誰も気づいてくれない、医王山のヒメシジミ、などなど。

参加は、富沢、竹谷、松井、浅地、浅野、長田、井村、大脇、細沼の9人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

大脇 淳・竹谷宏二：近年減少傾向にあると言われる8種のチョウの追加記録	… 1
松井正人・日吉芳朗：能登町宇出津沖で燈火に飛来した蛾	…………… 3
浅地哲也：ハルゼミの羽化殻の記録	…………… 3
日吉芳朗：石川県旧輪島市での2006年の蝶の採集・観察記録から	…………… 4
松井正人：2006年アサギマダラ日記	…………… 7
編集部：会員の動き・しゃばの動き	…………… 11

翔 187号

Tobu 2007年8月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所



a



b

a, b / 大庭 淳: 撮影
著者 c, d, e / 松井 正人: 撮影



c



d



e